配付資料３

教育博物館　特集展示

「世界を驚かせた明治の大発見～平瀬作五郎展～」の概要について

１　期　間　　令和元年　１０月４日(金)～１１月２４日(日)

２　展示構成と目玉資料

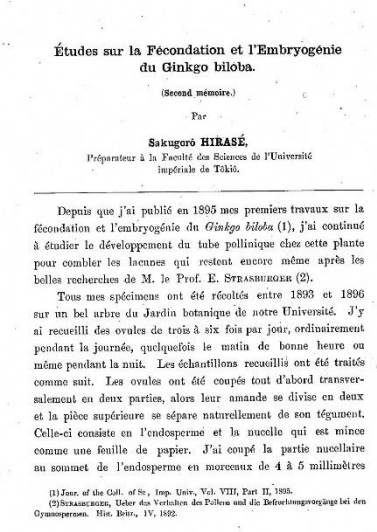
（１）平瀬が受賞した帝国学士院の「恩賜賞」賞牌（教育博物館　所蔵）

　この賞牌は、平瀬の、植物学の進化の解明に貢献した発見に対するものである。帝国学士院の恩賜賞は、湯川秀樹や野口英世、寺田寅彦らの研究者が受賞してきた日本で最も権威ある学術賞である。

第２回恩賜賞の賞牌（裏面(右)に「明治４５年授　平瀬作五郎」と刻まれている）1912 年。

（２）帝国大学紀要（1898）（東京大学理学図書館所蔵）

　平瀬作五郎が描いた精巧な図とフランス語で書かれた論文が掲載された帝国大学紀要。当時、帝国大学ではモースの提案で、先進国である西欧諸国に日本の研究が認められるために、論文をフランス語、ドイツ語で紀要にまとめて発表していた。平瀬の論文は、明治時代に日本人として初めてその内容が世界に認められたものである。



Études sur la Fécondation et l'Embryogénie du Ginkgo biloba.

(Second mémoire.)

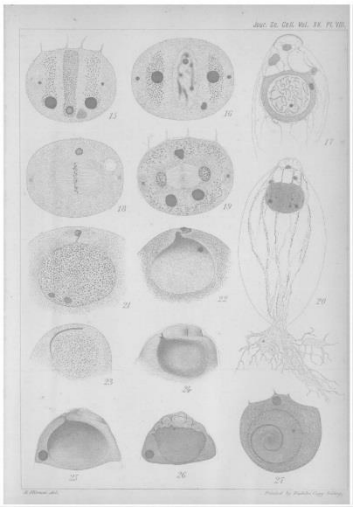
Par

Sakugoró HIRASÉ,
Préparateur à la Faculté des Sciences de l'Université impériale de Tôkiô.

Depuis que j'ai publié en 1895 mes premiers travaux sur la fécondation et l'embryogénie du *Ginkgo biloba* (1), j'ai continué à étudier le développement du tube pollinique chez cette plante pour combler les lacunes qui restent encore même après les belles recherches de M. le Prof. E. STRASBURGER (2).

Tous mes spécimens ont été récoltés entre 1893 et 1896 sur un bel arbre du Jardin botanique de notre Université. J'y ai recueilli des ovules de trois à six fois par jour, ordinairement pendant la journée, quelquefois le matin de bonne heure ou même pendant la nuit. Les échantillons recueillis ont été traités comme suit. Les ovules ont été coupés tout d'abord transversalement en deux parties, alors leur amande se divise en deux et la pièce supérieure se sépare naturellement de son tégument. Celle-ci consiste en l'endosperme et la nucelle qui est mince comme une feuille de papier. J'ai coupé la partie nucellaire au sommet de l'endosperme en morceaux de 4 à 5 millimètres

(1) Jour. of the Coll. of Sc., Imp. Univ., Vol. VIII, Part II, 1895.
(2) STRASBURGER, Ueber das Verhalten des Pollens und die Befruchtungsvorgänge bei den Gymnospermen. Hist. Beitr., IV, 1892.



（３）三好学教授の使った顕微鏡（東京大学附属　小石川植物園所蔵）

岐阜出身の三好学(1862-1939)は、11 歳の時に父が亡くなり、福井県三国の西光寺に引き取られ、約３年間学んだ。平瀬がイチョウの精子を発見する前年（1895（明治 28）年)、帝国大学理学部教授に就任。

この顕微鏡は明治期のもので、平瀬らが使っていたものに近いと考えられる。しかし、製造年は 1910(明治 43)年頃と推定されているので、平瀬が使用した顕微鏡はこれよりももっと性能が低かったと考えられる。

（４）平瀬作五郎が作った教科書（教育博物館　所蔵）

平瀬が作った図学の教科書は、それまでの日本画にはない洋画の基本的な技法や、器具を用いた新しい図形の描き方を学ぶものであった。これらは欧米の図学の教本を参考にしている。

① 「画学初歩」

岐阜県小学校用本 1878 年（明治 11 年）出版　当時、平瀬は岐阜県第一中学校で図画教員であった。

② 「用器画法」

1882 年（明治 15 年）から 1943 年（昭和 18 年）まで 62 年にわたって出版された。定規やコンパスなどの器具を用いて、幾何学的図形を表現する技法を学ぶ。

平瀬作五郎の略歴

1856(安政 3)年　福井藩士の長男として誕生
1872(明治 5)年　福井藩中学校（現藤島高校）を卒業
1888(明治 21)年　帝国大学植物学教室に画工として採用、1893 年からイチョウの研究を始める。
（同年、助手となる）
1896(明治 29)年　世界で初めてイチョウに精子が存在することを顕微鏡で発見。この発見は、日本の生物学研究が初めて世界に認められたものとなり、日本の近代植物学の発展期における最大の貢献と言われる。
1912(明治 45)年　帝国学士院恩賜賞受賞
（当時の日本で最も権威がある賞）
1925(大正 14)年　没（69 歳）

（その他）

平成 19 年に、リンネ（スウェーデンの植物学者）誕生３００年記念行事の基調講演において、天皇陛下（現上皇陛下）が平瀬作五郎の功績について言及された。